

子育て・教育環境からみたまちなか居住に対する住民意識に関する研究

秋田大学 学生会員 ○川畑 優人
秋田大学大学院 正 会 員 鈴木 雄
秋田大学大学院 正 会 員 日野 智

1. はじめに

近年、地方圏では少子高齢化などにより、中心市街地の衰退に歯止めがかからない状況にある。中心市街地活性化法では、「中心市街地活性化にとって、まちなか居住の推進を図ることが重要」とし、秋田市においても、中心市街地内の人口増加による活性化が模索されている。

小林ら¹⁾は、郊外居住者は中心市街地周辺の居住者よりも、中心市街地の「高齢者の暮らしやすさ」に対するイメージの差が大きく、居住における満足度への影響度も高いことが明らかとした。しかし、高齢者だけでなく、多様な世代が居住しやすい環境を創出していくことが地域にとって望ましい。そのため、本研究は子育て環境に着目した。中心市街地周辺は子育て世代が少なく、小林らの研究でもほとんど言及されていない。すなわち、中心市街地周辺の居住者と郊外居住者で中心市街地の子育て環境に対する意識の違いなどを把握し、今後のまちなか居住に求められる居住環境について考察する。

2. 意識調査と調査対象地区の概要

本研究は、中心市街地（JR 秋田駅周辺地域）居住者及び、郊外（将軍野地区、桜地区）居住者で、投函配布・郵送回収方式により、意識調査を実施した。調査対象とした将軍野地区は居住者年齢層が秋田駅周辺地域と類似しており、買物などの生活利便性が高い。桜地区は15歳以下の住民の割合が多く、生活利便性はさほど高くない。調査では、子育て環境への意識、中心市街地へのイメージ、自宅周辺に必要な環境の重要度などを質問した。725世帯に1450票を配布し、221世帯から307票の回答を得ている。

3. 自宅周辺に必要な環境についての重要度評価

(1) 拡張寄与ルール(ECR)法の概要

集団の選好意識を明らかにする ECR 法を用い、自

宅周辺に必要な環境の重要度を評価してもらった。本研究は生活する上で必要な環境を7つ提示し、合計が0となるように各項目に+5~-5点の点数を付けてもらった。 m 人の集団の項目 i の j に対する選好度は式(1)で表される。

$$g(c_{ij}^1, \dots, c_{ij}^m) = \sum_{l=1}^m w^l c_{ij}^l + \lambda \sum_{l=1}^m w^l \text{Min}(0, c_{ij}^l) - m\theta \quad (1)$$

ただし、 g : 集団の選好度

c_{ij}^l : 意思決定者 l による項目 i の項目 j に対する選好度

w^l : 意思決定者 l の重み(=1)

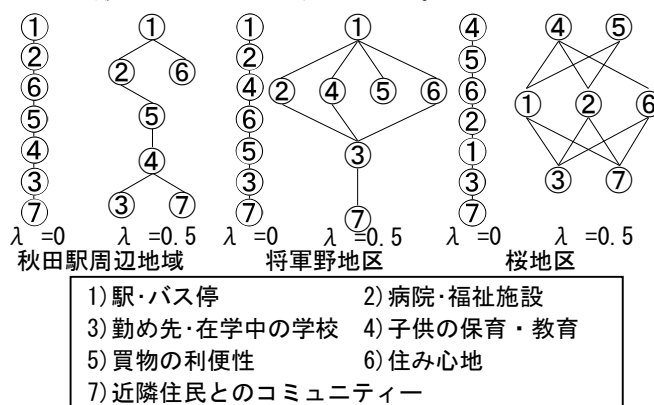
$\lambda(\geq 0)$: 大きいほど意見の一致度を高くとする値

$\theta(\geq 0)$: 弱い関係を排除する閾値

ECR 法の結果は、上方にある項目ほど重要度が高く、下方ほど重要度が低くなるよう構造化される。

(2) 居住地別でみた重要度評価

居住地別にみた ECR 法による分析結果を図1に示す。秋田駅周辺地域と将軍野地区では「1) 駅・バス停」が最上位となっている一方、桜地区では、「4) 子供の保育・教育」が最上位となった。さらに、子供がいる世帯では最上位となった項目は変わらず、「4) 子供の保育・教育」と「6) 住み心地」の重要度が上がった。また、子供がいない世帯では、居住地別にみた結果とほぼ変化がなかった。桜地区で「4) 子供の保育・教育」が上位となったことから、子供の割合が多い地区では、子供がいない世帯にとっても保育・教育環境が重要視されていると考えられる。



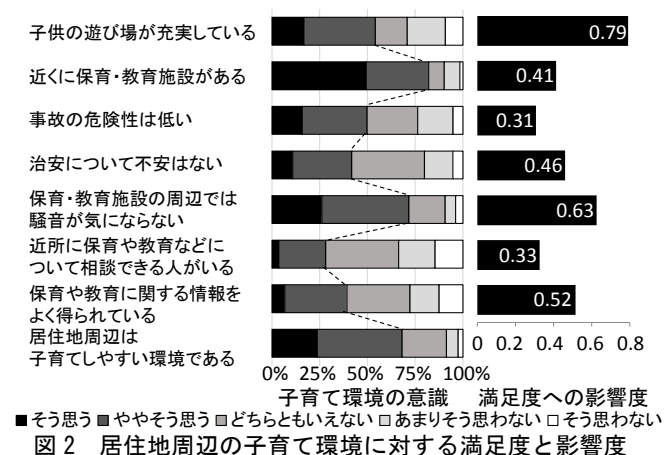
キーワード：まちなか居住、子育て・教育環境、意識調査分析

連絡先：〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1番1号 TEL(018)-889-2767 FAX(018)-889-2975

4. 子育て環境に対する意識の分析

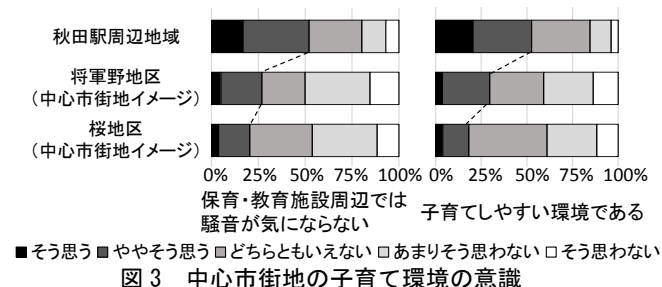
(1) 居住地周辺の子育て環境に対する満足度分析

居住地周辺の子育て環境について 8 項目の満足度を質問した。また、子育てしやすさの満足度への影響を把握するため、数量化理論Ⅱ類による分析を行った。外的基準を居住地周辺の子育て環境としての評価、アイテムを居住地周辺の子育て環境に対する満足度とした(図 2)。居住地別にみても、ほとんど結果に差はない。「子供の遊び場が充実している」のレンジが大きいことから、公園などを充実させることで居住地を子育てしやすいと感じる住民が増加するものと期待できる。



(2) 中心市街地の子育て環境に対する意識

秋田駅周辺地域居住者と郊外居住者の中心市街地の子育て環境に対する意識を比較すると、全体的に秋田駅周辺地域居住者よりも郊外居住者の中心市街地の子育て環境に良いイメージを持っていない。特に「保育・教育施設の周辺では騒音が気にならない」、「中心市街地は子育てしやすい環境である」という意識が大きく異なっている(図 3)。



5. 中心市街地に対するイメージの比較

中心市街地に対するイメージについて 15 項目を質問した。居住地に関係なく、「買物が便利」、「公共交通が便利」と考える被験者が多くっており、「地域との関わりが多い」、「事故の危険性が少ない」と考える被験者は少ない(図 4)。

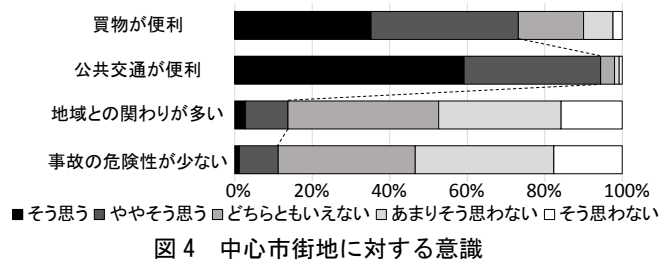


図 4 中心市街地に対する意識

秋田駅周辺地域居住者と郊外居住者で中心市街地に対するイメージを比較すると、「除雪が楽」、「騒音が気になる」と考える被験者は郊外居住者では多くなっており、イメージの違いがみられる項目である。これらは小林らの研究⁹⁾結果ともおおそ一致するものであった。

子供の有無別にみると、「事故の危険性が少ない」、「治安がよい」というイメージは秋田駅周辺地域居住者ではほとんど違いがみられなかった。一方、郊外居住者では、子供の有無でイメージが異なっていた(図 5)。すなわち、中心市街地以外に居住している子供のいる世帯の方が中心市街地に対して、あまりいい意識を持っていないことが明らかとなった。

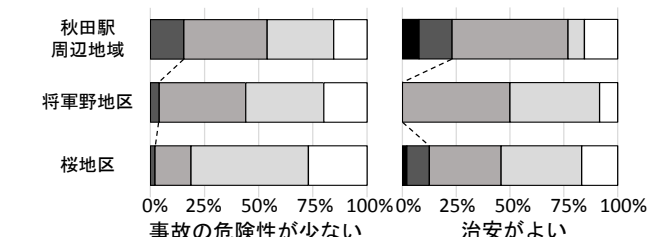


図 5 子供のいる世帯の中心市街地に対する意識

6. おわりに

本研究では、居住地別での自宅周辺に必要な環境の重要度や秋田駅周辺地域居住者とそれ以外の居住者で中心市街地に対する子育て環境などの意識に違いがあることなどを明らかとした。すなわち、秋田駅周辺地域の居住者は自らの居住地を子育てしやすい環境と考えているが郊外居住者はそのようなイメージを持っていないことから、イメージを改善することで中心市街地への居住推進に期待ができる。今後の課題として、中心市街地に対するイメージを改善する方策や改善した結果が中心市街地への居住意向にどの程度影響するかを検討する必要がある。

参考文献

- 1) 小林大輝, 鈴木雄, 日野智: 地方都市の中心市街地への居住に対する住民意識に関する研究, 土木学会東北支部技術研究発表会講演概要, 2014.